

ルート、工法を見直すべき

問題点は今後国交省と協議



おなが まさひろ 議員
小永 正裕

「この場所に移って、栽培したい程の優良農地が消滅する恐れがある。」

この道路建設によって失われる優良農地の面積を問う。また、一連の高規格道路建設のルートに関係する近隣市

問 佐賀く四万十市間高規格道路は本年夏頃、測量調査の説明会で概要を知った。

くろしお鉄道浮鞭駅付近の農地を横断し西へと続く。

農家、非農家にかかわらずに組織し、地域の農地は地域で守るという目的で活動する

「早咲農地保全会」の管理地に、高さ15m、幅55m以上の盛土工法で高規格道路建設予定だという。しかし、実務に当たる農業者から見れば、葉タバコ栽培にも最適の環境であるため、わざわざ他地域か

らこの場所に移って、栽培したい程の優良農地が消滅する恐れがある。

この道路建設によって失われる優良農地の面積を問う。また、一連の高規格道路建設のルートに関係する近隣市

町に、つぶれた農地はほとんどないと言える。須崎市から四万十町間、四万十市から宿毛市までの既設のルートを見ても、どちらも山の中腹など

を通るルートになっている。優良農地の消滅の状況にあるのは、黒潮町のみだとも言える。

大津波の襲来時には盛土工法は堰となり、加持川と牡蠣瀬川から打ち寄せる波は行き場を失い、入野地区に集中する。四つの避難タワーに逃れた人々の安全は確保できるのか。また、国交省から提示された3ルートの中に山側ル

トがある。このルートこそ、優良農地の消滅もなく、津波で破壊されることもなく、遺跡に掛る心配もない。後世に貴重な財産を残すよう、ルートと工法を見直すべきだ。

答 大西町長

優良農地の減少の件は、国、県の関係組織と協議中で、概数値では約7・7畝の減少になると推測している。

ルートについては、学校、病院、神社仏閣、墓地等避けるべき施設があり、かつ、構造令の制限で今の法線しかないと思う。また、広く北海道から沖縄までの国民の税金で

建設をして無料区間になるので、この道路を利用しない多くの国民にも説明責任がある

のでコスト削減が必要だ。その削減したコストの総量とベネフィット、いわゆる利益で、

3つの指標しかないが、それがクリアできて事業化の可否の判断が問えるので、工法は妥当だと判断する。

なお、高規格道路だけでなく、例えば今自分たちが利用

している国道や56号大方改良、さまざまな公共施設など、社会インフラの整備の際には、どこかで、どなたかに負担をお願いしてきたというのがこれまでの流れではないかなと思っています。残念ながら今回も、例えば農地であるとかそういった所に負担が掛かってしまう。従って、町としての姿勢は、そこで負担が発生するようであれば、その



「早咲農地保全会・子ども会」が設置した看板

負担を最小限にとどめることができるような施策をこれから順次展開していくというのが、私たちが持たなければならぬ基本姿勢だと思っています。

指摘のように優良農地や津波の問題もあるので、今後、国交省としっかり協議した

い。